

17. 富士山森づくりボランティア

1 日程 2024年6月2日(日)

2 場所 富士山麓

3 概要

昨秋に引き続き、今年もNPO法人富士山クラブさんのご指導のもと、富士山森づくりボランティアを実施しました。悪天候の中でしたが、無事に環境保全や自然体験活動を行うことができました。はじめに富士山クラブさんから、活動の内容や森林に関する環境問題の現状をご説明いただきました。様々な環境問題によって世界中の森林が減少する中、環境保全活動をする意味を十分に理解した後、作業を開始しました。参加者は数名ずつに分かれて薪割り、原木の運搬、小屋のペンキ塗り、ツリーハウスに使用する木の整備に取り組みました。作業の合間には、手作りのブランコやツリーハウスで遊ぶなど、多様な形で自然と触れ合う体験をさせていただきました。降雨のため視界や足元が悪い中でしたが、参加者は集中を切らさずに真剣に取り組んでいたのが印象的です。環境問題解決に努めることにおいて、現地に出向いて実体験を得ることができるこのような環境保全活動は、非常に意義のあるものだと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 藤井 りさ

4 学生参加者数 39名(法政29名、関西大学10名)

5 企画学生の感想

当日は大雨で危険性が増していたにも関わらず、周囲の方の支えにより安全に取り組みえた点良かった。一方、反省点は参加者同士の交流の場の欠如である。他大学生同士だけでなく法政大学生同士が積極的に交流していたとはいえない。原因はグループ活動が大雨でできなかった点である。知らない人とでも協力して親睦を深めることもボランティア活動の醍醐味の一つである。今後は参加者全員の自己紹介や交流時間の確保等の工夫を行いたい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 小林 幸弥

6 参加学生の感想

大雨によってかなり短時間の作業になってしまったが、参加者たちが力を合わせて木を倒し、また薪割りを体験するなど、普段の学生生活では体験できないようなことを体験させてもらったので本企画に参加してよかったと思う。薪割りは実際にやってみるとなかなか割れず、難しく感じた。また、久しぶりに自然の多い場所に行ったので、良い気分転換にもなった。次回こそは大雨の影響を受けずに、本来の作業や体験ができるととても嬉しく思う。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科3年 押江 省吾

本学も推進しているSDGsの重要性について改めて気づかされました。富士山の麓の森林の保全活動を通じた自然との関わり合いの中で自然が生み出す素晴らしい景色や光景に感動しました。

経営学部経営戦略学科2年 堀田 太一

天候に恵まれず、移動時間の割にはだいぶ短い活動時間になってしまいましたが、雨の中で森づくりの活動をするというのも特別感があり、楽しかったです。私はツリーハウス作りのグループでしたが、木の樹皮を剥く作業が疲れるけど気持ちよくて、たくさん褒めていただいたので楽しんで作業を行いました。企画に携わっていただいた皆様、ありがとうございました。

生命科学部環境応用化学科2年 長谷川 碧

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画
(法政大学後援会補助事業)

富士山森づくりボランティア

貴方の手で
自然の恵みを
次世代に

2023年10月実施の様子

お申し込みはこちらから

日時 2024年6月2日(日) 7:10-21:00
当日の天気により多少変更する場合がございます。

内容 富士山麓にて森林保全活動

集合場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 市ヶ谷体育館前

定員 40名程度

参加費 2,000円

お問い合わせ 法政大学市ヶ谷ボランティアセンター (外濠校舎1階学生センター内)
TEL 03-3264-7516
mail ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



富士山クラブの方からの説明



大自然の中、原木を運ぶ学生



薪割をする様子



活動後の集合写真

18. セラピードッグを知ろう

- 1 日程 2024年6月5日(水)
- 2 場所 外濠校舎5階523～526会議室
- 3 概要

6月5日、NPO法人セラピードッグすまいるわんの皆様にお越しいただきました。当日は、5人のハンドラーの方々と5匹のセラピー犬に参加していただきました。代表理事の時田様の講義を拝聴し、その後、参加者はセラピー犬とのふれあいを楽しみました。時田様の講義では、まず「アニマルセラピー」とはどのようなものかについてご説明いただきました。また、動物が人々にもたらす効果やアニマルセラピーの日本における現状についても詳しくお話しいただきました。セラピー犬との触れ合い体験では、参加者全員が円になり、ハンドラーの皆様と5匹のセラピー犬が順番に回るという形式で行われました。この方法は、実際に老人ホームや小学校などで実施されているものと同じです。触れ合い体験を通じて、参加者は5匹それぞれのセラピー犬としての特徴を実感し、通常の飼い犬とは異なる特性をみることができました。今回の企画を通して、参加者全員が普段なかなか出会うことのないセラピー犬と触れ合い、詳しく学ぶことができ、有意義な時間を過ごせました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科2年 川島 里奈

4 学生参加者数 38名

5 企画学生の感想

今回の企画は、セラピードッグと触れ合ってみたいという率直な気持ちから参加しました。講義全体を通してセラピードッグの役割を明確に知ることができ、とても勉強になりました。中でも特に、セラピードッグは活動日の24時間以内にトリミングに行き、シャワー、歯磨きをして人と触れ合うために清潔さを保つ必要があるということに驚きました。また、今回の触れ合いの体験では、とにかく可愛くおとなしいセラピードッグにセラピーの効果を十分に感じ、癒されました。一方で、社会におけるセラピードッグの認知度は未だに低い現状があり、このような活動がもっと広まってほしいと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科1年 谷高 愛

5 参加学生の感想

セラピー犬が、単に人を癒すという目的だけで活動している訳ではなく、病気の療法や子供たちへの教育のためにも活動しているということを知り、奥が深いと思いました。また、ハンドラーの方々が飼い犬をセラピードッグにするために様々な努力をされていることが印象的で、ワンちゃんのことを愛し、一番に考えているところに感動しました。実際に触れ合うことで皆が笑顔になり、暖かな雰囲気包まれる素敵なイベントでした。

文学部哲学科 2年 大津 夏帆





司会をする企画学生



セラピー犬が順番にまわり学生と触れ合う様子



質問をする学生



集合写真

19. 海洋ゴミアート企画

1 日程	講義	2024年6月6日(木)
	海岸清掃	2024年6月8日(土)
	アート	2024年6月16日(日)
	展示	2024年6月18日(火)～6月28日(金)

2 場所	講義	外濠校舎5階 S504 教室
	海岸清掃	湘南ひらつかビーチセンター付近
	アート	外濠校舎5階 523～526会議室
	展示	外濠校舎1階メディアラウンジ、 VSP内 Instagramにて作品投稿

3 概要

ボランティアセンター学生スタッフ VSP では、本学学部生を対象とした海洋ゴミアート企画を主催いたしました。本企画はアートを通して海の環境問題を身近に感じてもらうことを目的に行いました。1回目の講義にて海洋ゴミ問題についての現状を理解し、2回目の清掃にて実際にゴミ拾いをすることで、ゴミが多いこと、ゴミのせいで海が汚れることを体感しました。そして3回目に自身が海で回収したゴミを用いてアートを制作し、この問題について自らが啓蒙する立場になり、楽しみながら海洋ゴミの問題について考えてほしいという思いを込めて実施いたしました。講義、清掃、アートの3ステップ通して、ほとん

どの方が継続して参加してくださり、フィールドワークを楽しみつつ、講義、清掃で深めた海洋ゴミに関する考えを各々アートという媒体を通して表現してくださいました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科2年 山内 万結子

4 学生参加者数

講義 14名(共立女子大学3名)、清掃 14名(共立女子大学3名)、アート 13名(共立女子大学2名)

5 企画学生の感想

今回は講義、清掃活動、アートという3回に分割しての企画ではありましたが、1回1回に集中できたことで、企画者参加者ともに、より一層海洋ゴミ問題への知識知見を深められたと思います。実際に海に清掃をしに行ったことで、数字だけを見るよりも海洋ゴミの多さを実感することができました。また、当日講義してくださった柱本様、参加者の皆様、ビーチでのごみ拾いを手伝ってくださった平塚の皆様のおかげで行動に触れることができたことで大変有意義な時間を過ごせたとともに大きなやりがいを感じました。展示されるアートについても、多くの方への啓蒙となることを願っています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科2年 藤原 心音

6 参加者の感想

自分たちが清掃で拾ってきたものをアートとして形にのこすことがとても楽しかったです。他の参加者の方の作品も個性溢れたものばかりで驚きました。3段階の企画なのでテーマに深い関心をもって参加ができました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科2年 鈴木 理央

法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP企画(法政大学後援会補助事業)

海洋ゴミアート企画

「知る」「清掃する」「アートする」
この3ステップを通して、
海洋ゴミの問題について考えます。
※全3回に参加可能な方を募集します。

ステップ1：知る

【概要】講師の方を招いて海洋ゴミについて講義をしていただきます。
【日程】6月6日(木) 16:50～18:30
【場所】法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階 S504教室
【参加定員】本学学部生 20名

ステップ2：清掃する

【概要】実際に海洋ゴミを海岸に拾いに行きます。
【日程】6月8日(土) 10:00～12:30 (雨天時:6月9日(日)同時刻)
【場所】平塚ビーチセンター前

ステップ3：アートする

【概要】清掃活動で扱った海洋ゴミを使ってアート作品を作成します。
※制作が苦手なおでもサポートしますので大丈夫です！
【日程】6月16日(日) 12:00～17:00
※お昼ご飯は各自で取っておいってください。
【場所】法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階 523～526会議室

制作したものは
VSPのInstagram、
法政大学メディアラウンジ
にて展示予定です!!

協力団体：
公益財団法人
かながわ海岸美化財団 様

申し込み・問い合わせ
市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1階、学生センター内)
03-3264-9516
ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

Googleフォームからも
お申し込みできます!



グループディスカッションの様子



海岸でゴミを拾う学生



海岸で拾ったゴミでアート作品を体験



完成した作品を手に集合写真

20. 学生による語り部

- 1 日程 2024年6月10日(月)
- 2 場所 富士見ゲート2階G201教室
- 3 概要

2024年6月10日、市ヶ谷キャンパス富士見ゲート2階G201教室で「学生による語り部」が行われた。福島県いわき市出身である学生を語り手として、東日本大震災について知るとともに、災害の恐怖について考え、この先危惧されている首都直下型地震や南海トラフに向けて防災意識を高めることを目的として実施された。初めに、内山政春教授の震災についての話があり、緊張した面持ちで3月11日を思い起こした。教授の講話後、学生から地震の概要が説明され、地震が発生する原理と規模について理解した。また、地震に伴う津波と火災の被害により、大規模な家屋損壊と2万人を超える人的被害が及び、大勢の子どもが震災孤児になったことを知った。地震発生当日の行動や地震による切迫した状況を聞いた後、自分達はその時何をしていたか話し合うことで当時を顧みた。次に、地震に伴う福島第一原子力発電所事故によって多くの人が非難したことや、地震の影響によるその後の生活の変化、4月11日の地震について話され、復興の難しさについて学んだ。最後に、BINGとワークショップが行われ、新たな防災の知識をつけることができた。今回の企画により、参加者全員が災害がどれほどの被害を及ぼすかを知り、13年経った今だからこそ東日本大震災について考えなければいけないと感じた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
文学部日本文学科1年 小原 帆白

- 4 学生参加者数 28名(法政大学24名、共立女子大学1名、三輪田学園高等学校3名)

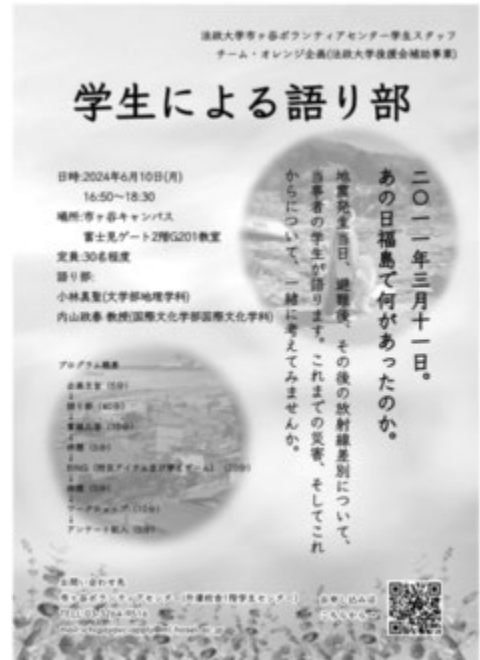
5 参加学生の感想

私も幼稚園の年長で、震源地から比較的近い栃木県である日を経験したので、3.11のことはよく覚えています。しかし、周りが泣き叫んでいたり、住んでいるところを離れるという経験はなく、大きな被害があったところで災害を経験した人の話を聞くことができ、私にとって深い学びとなりました。

文学部地理学科2年 大森 藤輝

震災の後は人々が不安のなかにあり、そのようなときはデマが広がりやすい。また適切な情報がないと風評被害が発生することもある。今回のお話を聞いて、震災などの非常事態の際には公的機関からの信頼できる情報が必要だと改めて感じた。

法学部法律学科 2年 村山 哲



震災についてご講義される教授



参加者全員で記念撮影

21. ダウン症企画～講義編～

1 日程 2024年6月13日(木)
2 場所 外濠校舎5階523～526会議室 Zoom

3 概要
毎年恒例のダウン症企画を、今年も開催しました。協力団体は、初回からお世話になっているダウン症の子どもを持つ親御さん方が立ち上げたNPO法人アクセプションズさんです。アクセプションズさんは障がいのあるなしに関係なく、お互いを尊重できるインクルーシブな社会の実現を目指して活動されています。毎年講義企画はzoomで行っていましたが、今年は対面とzoomを合わせたハイフレックス形式で実施しました。他大学や高校生にも参加者を募りました。通常、講義企画では講師の方が一方的にお話する形がほとんどです。しかし、今回は講師の方と参加者がディスカッションをし、一緒に考える企画にしました。はじめにダウン症に関する映像を見て、次にグループディスカッションを行いました。各グループには一人ずつアクセプションズさんに参加していただき映像の感想以外にも、アクセプションズさんに直接質問をし、体験談を聞くことができました。普段はなかなか接することのない方との考えに触れる貴重な機会を提供できたのではないのでしょうか。事前アンケートでは、ダウン症を「病気」と捉える方が多く、全体的にはネガティブな意見が中心でした。一方、企画実施後のアンケートでは「ダウン症の偏見に気づいた」や「ダウン症の方と一緒に交流したくなった」といったポジティブな意見がたくさん出ていました。アクセプションズさんは、ダウン症は偏見や社会的な障害に苦しんでいるとよくおっしゃっています。今回のような企画を実施することで、少しでも多くの人にダウン症の印象をポジティブにできると思います。これからもダウン症の理解が深まるように、企画を実施していけるよう努力します。



4 学生参加者数 20名(法政大学11名、共立女子大学4名、三輪田学園高等学校5名)

5 企画学生の感想
ダウン症を持つ親の視点からの実体験を聞けるとても貴重な機会になりました。たくさんの情報を吸収できたと同時に頭がすこし追い付いていない部分もあるので、頭の中を整理したいなと思います。ダウン症というテーマでの講義企画ではありましたが、ダウン症だけでなく世の中にはさまざまな難しさを抱えながら生きていく人がたくさんいる中で、どのように合理的な配慮をしていけばよいのかということを考えるきっかけになりました。

6 参加学生の感想
自分が今まで既存の社会の枠組みのようなものに縛られて、ダウン症の方々も含め様々な物事人と向き合っていたのだなということを痛感しました。傷ついたということではなくて、むしろすごく今日の講義を受けて、自分も含めて色々な人の持つ個性を受け入れてもらえたような気がして幸せな気持ちになりました。今回はこのような機会を作っていただき、ありがとうございました。



アクセプションズ様の講義



集合写真

市ヶ谷ボランティアセンター
活動について
活動の報告

22. 2024年度 東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会

- 1 日程 2024年6月15日(土)
- 2 場所 富士見ゲート1階 学生ホール、飯田橋駅講習室、飯田橋駅構内

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンターと東京メトロは、飯田橋駅構内の「見守る目」として、2017年6月から学生によるボランティア活動を継続して今年で8年目となります。講師に公益財団法人日本ケアフィット共育機構様をお招きし、座学と実技を交え、活動にあたっての基礎知識や注意点、心構えを学びました。座学では、障がいには個人差があることやサポートを不要としている人もいるので、必ずお声がけをする等ご案内の方法について理解を深めました。実技では車椅子利用や視覚障がいの方との接し方についてや、車椅子の折り畳み方などの基本的な取り扱い方法を二人一組になり、視覚障がいの方のご案内方法などを体験しました。最後にペーパーテストを実施し、全員がサービス介助基礎検定の資格を取得しました。「大学から一番近い地域貢献ボランティア」である東京メトロ飯田橋駅ボランティアを今後ともしっかりと進めていけるよう努めたいです。

4 学生参加者数 13名

5 参加学生の感想

私が一番印象に残っているのは、車椅子の方の介助をする体験です。車椅子に乗っている側の視点に立つことで、介助する側が何を求められているのかを理解することができました。またこれから先、家族や親戚が車椅子に乗ることも考えられるので、その際に役に立つ知識を身につけることができたと感じています。他にも白内障の目の見え方が分かるゴーグルをつける体験などで身をもって知ることができたので分かりやすかったです。最後に、研修会に協力してくださった方々に感謝したいです。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア 法学部国際政治学科1年 野尻 隼

車椅子は普段全く使う機会がなかったので、乗っている人に配慮することを第一として、操作するのがとても難しかった。車椅子の部位の名称や、移動する際に体のどこをつかうか、重心のかけ方などを十分理解することができた。実物に手で触れて操作の仕方を学べる貴重な機会が得られてよかった。白内障の方の物の見え方を眼鏡をかけて体験する時間では、物が見えづらく、バランス感覚も奪われているような感じがして、とても大変だった。研修会に参加して、自分が感じていた普通があたりまえのことではないこと、障がいを持つ方の苦労を理解した上で接することの大切さを学ぶことができるとも有意義な時間だった。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア 文学部英文学科1年 土居 紗弥香

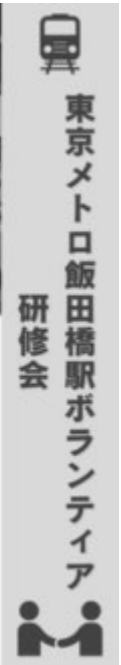


日時
6月15日(土) 12:50-17:50

場所
法政大学市ヶ谷キャンパス
東京メトロ飯田橋駅

参加者
東京メトロ飯田橋駅ボランティア
新規加入者

内容
サービス介助セミナー
飯田橋駅構内の見学 など





車いすの取り扱い方法を学ぶ学生



視覚障がいの方の見え方をスマートフォンを見て体験する学生



視覚障がいの方の見え方を歩いて体験する学生



駅ホームについて学ぶ学生



案内板を確認する学生



参加者全員で記念撮影

23. つながるゼミ～災害ボランティアについて学ぼう！～

1 日程 2024年6月20日(木)

2 場所 外濠校舎4階S407

3 概要

2024年6月20日、市ヶ谷キャンパス外濠校舎4階S407教室で「つながるゼミ」が行われた。熊本支援チーム 横山由様から1月からの被災地復興ボランティアについての講話をお聴きした。現地の様子や、未だに多くのボランティアを必要としていることが分かった。また、被災地の現状を知ることで、普段の生活のありがたみを学ぶことができた。次に、ロープを使用したレクリエーションを行った。「巻き結び」・「もやい結び」の2種の方法を学び、緊急時以外でも使用できるようにロープ体験を行った。最後にレースを行い、楽しみながら知識をつけることができた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
文学部地理学科2年 小林 真聖

4 学生参加者数 13名(法政大学10名、三輪田学園高等学校3名)

5 参加学生の感想

富山出身の自分にとって今回は他人事とは思えなかった。ボランティア経験が無い自分にとって貴重な話を聞くことができた。もともと今年の夏に石川にボランティアに行こうと思っていた身として今回の講座は大変参考になった。もしまた同じような機会があれば参加してみたいと考えている。

国際文化学部国際文化学科2年 市村 翼

一月のうちから実際に、能登に行かれた方の話を聞いて、とても興味深かったです。たくさんの現地の写真を見て、その光景にショックを受けつつも、これは震災直後だから仕方がないとも思っていました。しかし、6ヶ月経った今でもさほど変わらない光景の写真を見た時、さらに衝撃を受けました。ニュースでは報道されないことが思っている以上にたくさんあるのだと強く感じました。今回は貴重な体験をありがとうございました。

人間環境学部人間環境学科 1年 伊藤 優希



講話を聴く学生



参加者全員で集合写真

24. 災害救援ボランティア講座

1 日程 2024年6月22日、6月29日、7月6日（毎土曜日）

2 場所 富士見ゲート5階 G501 教室、市ケ谷総合体育館3階柔道場、池袋防災館、大内山校舎7階 Y704 教室

3 概要

市ケ谷ボランティアセンターでは、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区社会福祉協議会のご協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施しました。

第1日目は、市ケ谷キャンパス富士見ゲート5階 G501 教室にて千代田区社会福祉協議会の取り組み、災害救援ボランティアの基本、千代田区の地域の特性を踏まえた災害に関する取り組みを学び、災害ボランティア活動のケースワーク（グループワーク）を行いました。

第2日目は、市ケ谷総合体育館柔道場にて、上級救命技術講習として応急手当活動について学び、AED の使用方法、胸骨圧迫、災害時などでのけがの応急処置など実際に人形などを使い実践しました。

第3日目は、池袋防災館で災害模擬体験を行った後、大学に戻り講義形式で災害対策の基本や災害ボランティア活動の安全衛生を学び、図上演習（グループワーク）を行いました。

災害救援ボランティア講座は毎年行われており、全講座受講により、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定書が交付されます。今年も多くの学生が認定証を交付されました。また本企画参加者は「法政大学災害救援ボランティア」に登録し、災害発生時に学生ボランティアとして活動します。市ケ谷ボランティアセンターでは引き続き災害時に活躍できる学生の育成に取り組んでいきます。

4 学生参加者数 6月22日 29名、6月29日 28名、7月6日 28名

5 参加学生の感想

災害対策の基本の他に、上級救命講習を通じた応急手当活動、ワークショップ・図上演習を経て、災害についての意識がより高まった。ただ自分一人で学ぶのではなく、ほかの参加者との話し合いがあったことにより、新たな視点の発見にもつながった。特に最終日に行った図上演習が印象的で、三日間で得た知識を基に判断する場面もあったため、復習の意味もかねて濃い時間を過ごすことができた。この三日間で得たことを、家族や友人に共有して、みんなで防災意識の向上を図っていきたい。

法学部法律学科3年 後藤 元香

全3回にわたって災害救援ボランティアに関する講義、並びに救命のための実技を教えてくださいました。私は今年の能登半島地震や2011年の東日本大震災で身近な人が苦しんでいる様子を見て、何とか被災された方々の助けになりたいと思い応募しました。講義では、地震だけではなく、災害対策基本法に規定されている様々な災害について、それがなぜ起こるのか、また人々にどのような被害をもたらすのか、それに対して私たちは何をできるのか、ということを知りました。どの回も興味深く取り組みましたが、特に第2回の上級救命講習が印象に残っています。そこでは人が倒れていた時の一連の確認事項と対応策を学び、最後には筆記試験に取り組みました。私はかつて電車内で倒れている人を目の前にして、何もできなかった自分にどこか歯がゆさを覚えていました。この回を通じて、今後そのような事態に直面した時も慌てず、冷静に対処できるなと思えました。私の周りの参加者の方々は、能登半島地震の被害者が身内にいた等の理由から参加された方がいて、グループワークでも意欲的な姿勢をみせていました。グループワークを通じて知り合いも増え大変満足のいく充実した3日間になりました。

法学部法律学科4年 井手 洋輔





災害ボランティア活動のケースワークの様子



応急手当活動について学ぶ



2 日目に開催された AED を実際に体験する学生



3 日目、池袋防災館で職員から説明を聞く



池袋防災館で災害の模擬体験を行う



認定書を受け取る学生

25. 学習の貧困企画～私たちにできること～

1 日程 2024年6月27日(木)
 2 場所 富士見ゲート4階G403教室

3 概要

昨年度に引き続き子どもに関する企画を実施しようと考え、学習支援がテーマとなりました。相対的貧困により思い通りに学習ができない、学習できる環境にいない子どもたちをテーマに企画が進行しました。協力団体は子どもの貧困解決を目標に活動している認定NPO法人キッズドアさんです。企画メンバーは約半年間キッズドアさんが運営する学習会にボランティアとして参加させて頂きました。実際に参加させて頂くことで現場を知り、私たちに何かできないか、どのようにしたらうまくいくのかとより深く考えるきっかけとなりました。当日はキッズドア様の講義、VSP企画者による体験談の発表、ディスカッション、質疑応答の順で進行了しました。講義は「学習の貧困～私たちにできること～」をテーマに行っており、講義中に参加者に意見を求めるなど考える機会を頂きました。ディスカッションでは「地域や家庭による教育格差をどのようにしたら減らせるか」「勉強が苦手な子どもに学習を習慣化してもらうにはどうすればよいか」をテーマに行いました。参加者全員が積極的に話し、良い意見交換ができたと思います。最後の質疑応答では多くの参加者からの確かな質問をして頂き理解が深まったと感じます。現実には起きている問題を認識し、実際にキッズドア様がやっている支援を知ることができました。人間一人だけでは到底解決できないような問題を社会全体が認知かつ理解し、行動をすることで良い方向に向かうのではないのでしょうか。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 工学部経営システム工学科3年 山本 樹輝

4 学生参加者数 28名(法政27名 三輪田学園1名)

5 企画者の感想

キッズドア様の講義では、子どもの貧困に関する問題と民間団体が行っている無料学習支援等の取り組みについて大変貴重なお話を聞くことができました。企画に参加していただいた方とのグループディスカッションでは、自分では思いつかなかった考え方を知ることができ、視野がとても広がりました。講義を聞いた後にディスカッションを行うことでより一層理解を深めることができたため、ディスカッションをすることの重要性を感じました。子どもの教育支援企画に参加したことが自分にできることは何なのかを考えるきっかけとなりました。参加することができてよかったです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科1年 柳澤 心李

6 参加学生の感想

子どもの貧困について知らないことが多かったです。今回の企画を通して子どもに無料学習支援を行っている民間団体が多くあることを知りました。子どもの貧困問題について理解を深めることができたことで、自分にできることは何なのかを考えるきっかけになりました。できることは少ないかもしれませんが、行動に移せるようにしたいです。大変貴重なお話を聞くことができ、企画に参加することができてよかったです。

法学部政治学科1年 柳澤 心李



司会をする VSP 企画者



集合写真

市ヶ谷ボランティアセンター
 活動について
 活動の報告

26. 海洋プラスチックのリサイクルについて学ぼう！

- 1 日程 2024年6月28日(金)
- 2 場所 富士見ゲート4階G401教室
- 3 概要

近年、プラスチックによる海洋汚染が大きな問題となっている。プラスチックは生活のあらゆる場面で利用されているが、その多くは正しく処理されないまま環境中に流出してしまうことが少なくない。私たちVSPはこれまで、エコキャップ回収・分別や本・洋服リサイクル、海岸清掃など、実際にボランティア活動をする企画を数多く実施してきた。しかし、そのようなリサイクルの必要性を学ぶことを目的にした企画が少ない。そこで、特にVSPが定期的に行っているエコキャップ企画と海岸清掃企画に関連して、プラスチックをリサイクルすることの意味を学び、ひいてはエコキャップ企画と海岸清掃企画の参加意欲を高める手助けになってほしいと思い、本企画を立案した。本企画では、海洋プラスチックの発生やそれに伴う実際の被害状況を知ったうえで、企業の取り組みや海洋プラスチックごみ問題の解決を推進しているNPO法人の取り組みについて理解を深め、私たちひとりひとりに求められるリサイクルの姿勢を学んだ。さらに講義・ディスカッションを通して参加者自身がこの問題について考え、今後どのようにプラスチックごみ問題、ひいてはリサイクル問題と向き合っていくかを考える機会とすることができた。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部心理学科3年 丸田 唯莉

4 参加学生数 14名(法政9名、共立2名、三輪田学園3名)

5 企画学生の感想

プラスチックごみのリサイクル率の実態や、実際に海洋環境や生物に与えている影響を、写真やエピソードを踏まえての講義だった。特に日本のリサイクル率の高さは、実際には他のアジアの国々に輸出しているからということを知り、衝撃を受けた。このようにプラスチックごみの問題は非常に複雑であるため、ひとりひとりが少しずつ協力することで解決につながると学んだ。身近なリサイクルから少しずつ頑張っていきたいと思う。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部心理学科3年 丸田 唯莉

6 参加学生の感想

海洋プラスチック問題については、地球規模で解決しなければならない問題であることは認識していたが、その現状や影響についての知識はまだ足りていないことを実感した。周辺環境には自分が思っているよりも身近にプラスチックが多く存在し、1度海に出してしまうと回収がほとんど困難であり、今の技術をもってしても難しいことがたくさんあるのは衝撃を受けた。しかし、自分がすぐにはできるリサイクル方法についても教えていただいたので、これから実践していきたい。

人間環境学部人間環境学科1年 花井 美友

海洋プラスチックのリサイクルについて学ぼう！
法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP企画(法政大学後援会補助事業)

イベント詳細

日程 6/28(金) 16:50~18:30
場所 法政大学富士見ゲート4階G401教室
参加費 無料
定員 30名
講師 NPO法人uminari

▽当日の流れ

16:50~ 講師紹介
16:55~ 講義
グループワーク
講評
18:10~質疑応答

海を守るために、
私たちにできること

お問い合わせ
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター
(外環校舎1F学生センター内)
ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp
03-3264-9516

お申込みはこちら



司会をする学生スタッフ



講義の様子



グループディスカッションをする参加者



集合写真

27. 農業ボランティア

1 日程 2024年6月30日(日)

2 場所 群馬県渋川市

3 概要

昨年度に引き続き行われた「農業企画」。今回も非営利団体よいおやさいさんのご指導の下、農業ボランティアを無事実行することが出来ました。群馬県渋川市にて農業企画を行いました。天気もなんとかもち、予定通りの活動を行うことが出来ました。今回は法政大学の学生20名が参加しました。農作業では複数の畑を訪れさつまいも畑の雑草取りやネギの植え替えやブルーベリーの収穫を行いました。また近隣の農家さんとの交流を行い農家さんの日々の暮らしや農業の状況について知ることが出来ました。「農作業は大変なことも多いけれど、人々の笑顔を見ていると、より一層やりがいを感じる。また、地元の方々とも交流が深くなる。」そんな素敵な想いのある方たちと活動することが出来ました。最後には、ブルーベリーのスムージーの試飲までさせて頂き、とても充実した活動になりました。次回はまた違う農作物を収穫出来たらと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科 2年 福本 晴己

4 学生参加者数 20名

5 企画学生の感想

今回の農業ボランティアで私は、雑草除去作業やネギの植え付け、ブルーベリーの収穫作業をしました。当日はとても暑く作業でした。雑草の伸び具合に驚きながらも根っこから狩るという事を意識して作業を行いました。また、ネギの植え付けでは大きく育ったネギを取り、それらを壤土に植え付けるといった作業を行いました。このような一連の農作業のなかで、私たちはとても達成感のある経験をしたと感じましたが、農家さんはこのような農作業を毎日やっていると思うと本当に大変な作業なのだと思いつつ、農家の方々に対する有難さを改めて認識することが出来た、とてもいい機会になりました。最近は特に天候の変化も激しく、それゆえに大変なことが多いけれど、中でも農作物の小さな変化に喜びを覚えていると仰っていました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科 2年 福本 晴己

6 参加学生の感想

農業体験は小学生振りにやったのですが、久しぶりに体験してみて体力勝負の仕事だと再度認識できました。農家の方から生の声を聞けたり、久々に土と触れ合えたりとても貴重な体験でした。数時間しか活動していなかったのに、とても体力を消耗したので農家さんに頭が下がらないなと思いました。また農業に関わることのできる活動を行いたいなと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部史学科 1年 美濃部 藍子

しっかりと農業を体験したのは小学生の頃の田植え体験以来だったので、非常に貴重な経験となりました。また、日頃農業に携わっている方から農業に関する生の声を聞くことができ、社会的に問題となっている農業についての課題がとても身近に感じられました。将来、農業政策に携わることができたら今回得られた知見を生かしていきたいと思います。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 4年 志賀 隆聖

群馬県で農家さんのお手伝いをしてみませんか？
ブルーベリーの収穫を行う予定です。

ご協力：よいおやさい
定員：20名ほど
費用：1,500円(別途昼食代)

集合時間：8:45
集合場所：池袋駅西口

お申し込みはこちら

法政大学ボランティアセンター主催・ボランティアプログラム(法政大学後援会補助事業)
お問い合わせ：法政大学市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1階学生センター内)
☎03-3264-9516 | ichigaya-vc@hosei.ac.jp
○特定非営利活動法人よいおやさい: <https://410831.com/>



畑の雑草除去作業の様子



ブルーベリーの収穫体験の様子



農家さんと交流をする学生



ブルーベリーの葉の摘み取り作業をする様子

28. 災害時における SNS 講座

- 1 日程 2024年7月1日(月)
- 2 場所 富士見ゲート2階G201教室
- 3 概要

2024年7月1日、市ヶ谷キャンパスG201にて「災害時におけるSNS講座」が実施された。防災コミュニティネットワーク増村様より、講話をいただいた。災害時だけでなく、平常時からの地域コミュニティとの向き合い方や災害時の情報収集など多くのことをお話していただいた。その後、クロスロードという方法で実災害における災害時の行動についてグループディスカッションを通して知識を深めあった。最後に災害伝言ダイヤル171の体験を行い、災害時の情報のやり取り方法やアプリを紹介することで災害時の情報収集について多くのことを学んだ。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
文学部地理学科2年 小林 真聖

4 学生参加者数 12名

5 参加学生の感想

SNSの使い方や防災について自分が知っているに加えて、自分の中で改善すべき点など多く知り、理解を深めることができました。情報を得ることは今の世の中では簡単であるが故にどの情報が本当なのかしっかりと見抜く必要があると感じました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ デザイン工学部3年 齊藤 蔵人
私は、災害が起こったことを考える際に、どこに避難すればいいのか、また食料はあるのかなど、発災直後を考えることが多かったが、今回の講話を聞いて非常食を食べ慣れてなかったり、地域の方々との連携が全く取れていなかったりなど課題がたくさんあることに気づかされた。また、災害伝言ダイヤルなども初めて使うことができたのでよかった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科2年 蛭原 隆晟



災害伝言ダイヤルアプリを実際に体験する参加者



グループディスカッションをする様子

29. 獣害対策講座～獣と人間の共生について～

1 日程 2024年7月5日(金)

2 場所 富士見ゲート6階G602教室

3 概要

近年、イノシシ、シカ、クマ等による農作物の被害や住居への侵入は全国的な問題となっており、その被害は都内の新宿区でも見受けられ、都心を行き来する私たちも無視することはできません。そこで、このような機会に獣害と人間との共生を考えることが必要であると考え、私たち市ヶ谷ボランティアセンターVSP主導の元、今回の企画を実施するに至りました。また、これからの社会を担う私たち学生自身が主体となって獣害対策に取り組むことを重視したため、今回は早稲田大学「平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)」の「狩り部」様を講師にお迎えしご協力いただきました。本企画では、狩り部さんの現地での活動報告や実際に使用されている罠にかかってみるといふ、「実践的」な体験を取り入れることで獣害を身近なものとして認識してもらうための機会を提供しました。またグループディスカッションでは獣害問題やシビエ料理などに関する議題に対して様々な意見が飛び交い、今後自主的に獣害問題と向き合うきっかけとなったのではと感じます。

ボランティアセンター学生スタッフVSP
人間環境学部人間環境学科2年 高木 結衣

4 学生参加者数 21名(法政18名、共立女子3名)

5 企画学生の感想

近年身近な問題になっている獣害問題を考えることは普段できる体験ではなく、参加者や私自身も集中して講義に参加することができ、とても貴重な経験でした。講義では早稲田大学狩り部の方が動画や、写真、聞き手に対する質問など多くの工夫をされており、講義内容に没入することができ、講義の仕方も学ぶことが多くありました。特に、罠の体験では普段できない体験を参加者の方にも楽しんでいただけてよかったです。グループワークでは、私はファシリテーターを務めたのですがグループの方全員意見を聞くことはできませんでしたが、議論の内容を深める、そしてその意見をグループの意見としてまとめることが難しいと感じました。今後の講義企画ではファシリテーターとしてうまく議論を活発化させられるよう努めていきたいと思っております。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部法律学科1年 堀下 紗歌

6 参加学生の感想

罠にも違法なものがあるとか、現在の被害状況やその対策する人の数などの知識に加え、近い年代の人の体験や考えを聞いたのはとても貴重な機会だった。自分が持っている知識だけでは獣害問題というのは簡単には表せないほど、生態系だったり、生命倫理だったり、法整備だったり、とても複雑な問題で、それについて考えたり、ディスカッションができて良かったしとてもいい刺激になった。また、実際の皮や罠など自分の目で見ることで身近なものに感じられた。獣害の問題について、様々な方面から多くの知識を得られたことがとても楽しかったし、充実した時間だった。

人間環境学部人間環境学科 1年 花井 美友

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター主催・学生スタッフVSP企画
(法政大学後援会補助事業)

獣害対策講座

～獣と人間の共生について～

7月5日(金)

【協力団体】早稲田大学「狩り部」の皆様
(平山郁夫記念ボランティアセンター)

【時間】16:50～18:30

【場所】S405(法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎4階)

【定員】30名程度

【主催・お問い合わせ】
市ヶ谷ボランティアセンター
tel 03-3264-9516
mail ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

実際に罠にかかるといふ体験も!!

早稲田大学「狩り部」の学生さんによる講義を実施します

申込はこちら



鹿の皮を触る体験



集合写真